

けごん けいこく
華厳溪谷からの
日の出



▲スタッフが用意したコーヒーを飲みながら、その時を待つ参加者の皆さん。ドキドキ…。

10月3日（日）に『千手ヶ浜サンライズ&☾スポットツアー』を開催しました。今年は低公害バスの早朝便が期間限定で出ていたので、こちらを利用しました。この便を使うと、始発の赤沼を4時頃出て、千手ヶ浜に5時頃には到着します。

当日、実際に見ることができた日の出の様子が下の写真です。日の出を見ることが最大の目的だった本イベントは、曇り予報の場合でも中止にする予定でした。まさかこれほどまでの日の出を見られるとは！スタッフも感動！

実は関係者の間ではこの日の出は有名で、スタッフも数年前から見に行っているのですが、太陽の位置と天気がここまでバッチリ合う日はなかなか無かったんです。いいな～参加された皆さん、羨ましいっ！

来年も早朝便が運航されたらぜひ、イベントでも個人でも、チャレンジしてみてください。

また『日の出日の入りマップ』というサイトを利用すると、いつ、どこで、どこからの日の出が見られるか検索できるので、ぜひ参考にして、日の出ハンティングを楽しんでみてはいかがでしょうか？（本イベントもこのサイトを参考に日程を組みました。これ、すごいですよ！）



男体山と華厳溪谷のちょうど真ん中から上がる太陽と、スッと伸びた光の道、更にけあらし（水面に立ち上る霧が湯気のように見える現象）が幻想的な雰囲気演出しています。この日はまだ10月に入ったばかりだったのにけあらしが出るのは、冷え込みが激しい奥日光だからこそ。鑑賞の際は厚手のダウンジャケットや手袋が必須です。

奥日光の自然情報誌

楓通信 No.147

発行：自然公園財団日光支部

Tel：0288-62-2461

2021年12月初旬発行

季刊 無料

次号2022年3月初旬 発行予定

『楓通信』定期購読について

本誌は無料です。定期購読は、2年単位（発行数8部）で1,000円（送料・手数料・税込）となっております。

購読をご希望の方は、日光湯元ビジターセンターへ直接お越しになり申込書にご記入いただくか、お電話にてお問合せくださいませ。

不明点やご質問がございましたら、楓通信担当、宮城までご連絡くださいますようお願い申し上げます。 TEL：0288-62-2461

奥日光の自然情報誌

楓通信

2021年度 No.147

12-2 月号

奥日光の、長い長い冬。



キツネ（千手の森にて）

今号のみどころ

・改めて考えよう あるキツネのはなし

・特集 チャレンジ！冬の刈込湖！

第7回 One Team

奥日光は日本のカナダ？！

前回に引き続き、去年までカナダ在住(オンタリオ州のトロントの北の小さな町)だった現役ビジターセンター職員に、何かと共通点の多い奥日光とカナダについて話を聞きました！

Q、奥日光で冬に多い問い合わせだと、渡り鳥など野鳥に関するものがありますが、鳥はどんな種類がいますか？

A、では、今回は『**似ているけどなんか違う？**』カナダと奥日光の野鳥をご紹介します！



まずはこちら。ぱっと見ると、どちらも同じコガラに見えますよね？でも実は、①は『アメリカコガラ』という、カナダで見られるコガラなんです。

よく見ると、アメリカコガラは脇？のあたりが一部褐色になっていたり、微妙な違いがあります。

次はこちら。キツツキの仲間、アカゲラです。これもよく見ると、何やら顔立ちが違う気がしませんか？

こちらは、③がアカゲラ、④は『セジロコゲラ』といいます。頭のとっぺんが赤いところは同じですね。でもなんだろう…なんか、セジロコゲラは強そうですね、顔が(笑) すごく似ているのに、生息地が日本とカナダというだけで様々な違いが！



奥日光の冬のバードウォッチングといえば、カモなどの水鳥たち。⑤と⑥はそれぞれオンドリのオスとメス、⑦と⑧は『アメリカオシ』といいます。

オスの奇抜なスタイリングは似ていますが、こちらはアメリカオシの方が地味な配色という意外性が！対してメスは、胸の模様も目元の白いくま取りも同じで、そこまで大きな違いはないんですね。比べてみるとそんなところも面白いですよ。

そしてなぜかこの子たちも、顔はアメリカオシの方が強そう(笑)

2回にわたり奥日光とカナダについてお伝えしました。海外へ気兼ねなく行けるようになるのはいつになるのか…といった状況ではありますが、来たるその日に思いを馳せて、今を乗り切りましょう！

あるキツネのはなし

今回は、二年ほど前に関係者の間で話題になった、奥日光のあるキツネについてお話をさせていただきたいと思います。

近年、奥日光が避暑地として一層注目されるようになり、加えてキャンプブームも重なり、夏から秋にかけて、例年よりもたくさんのお客様がいらつしやるようになりまして。キャンピングカーを見かけることもかなり増えました。

多くのお客様が奥日光にお越しになること自体はとても嬉しいのですが、ある問題があります。

今回お伝えしたいことは、『ゴミ問題』についてです。

下の写真は、光徳駐車場の



茂みに放置されていた生ゴミです。これはごく一部で、別の日には、ビニール袋に入った大量のゴミが放置されていたことが何度もありました。

そして、このゴミの味を覚えてしまったのでしょうか、光徳周辺で自分から人間のまわりをウロウロするようになったのが、このキツネです。



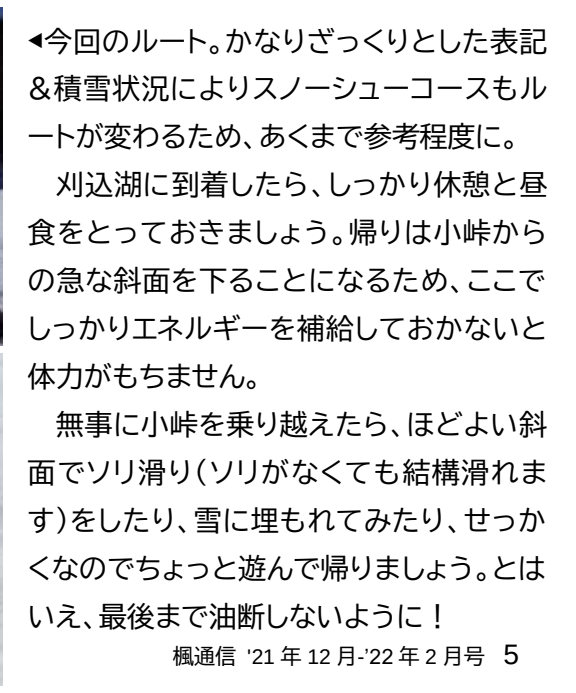
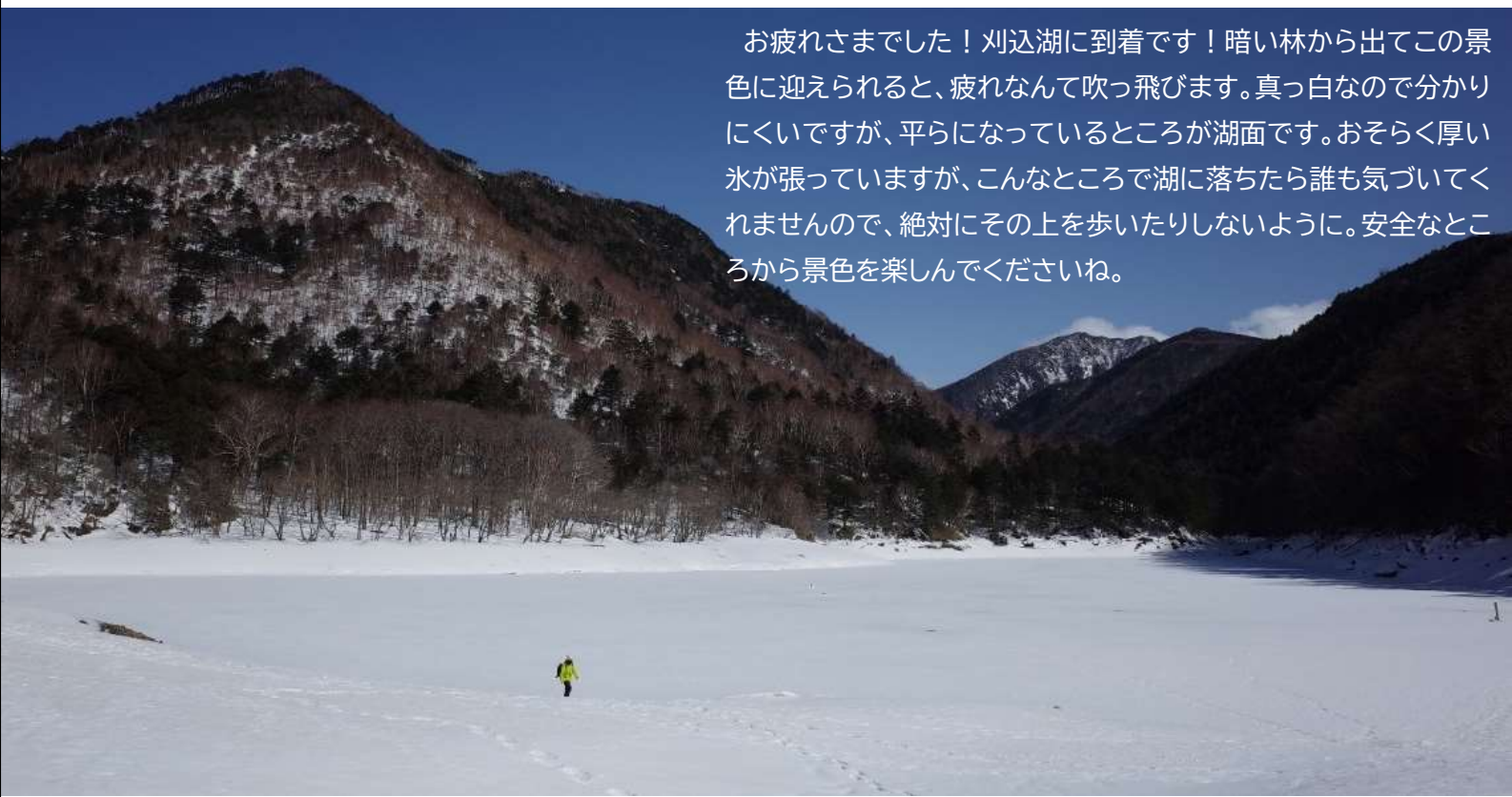
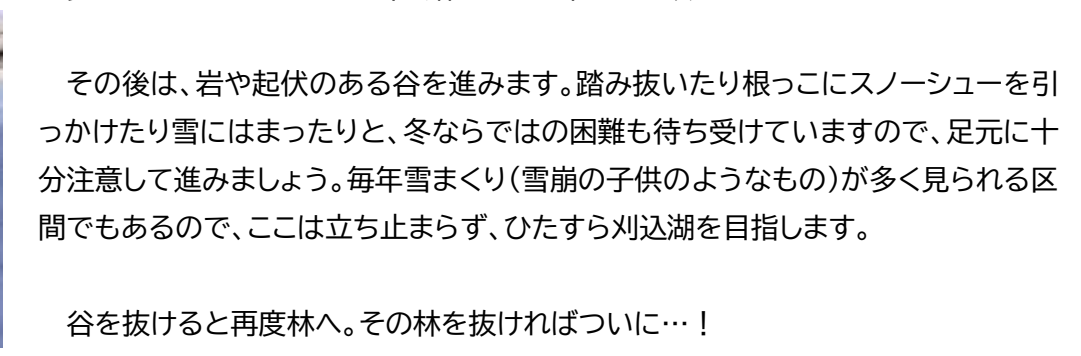
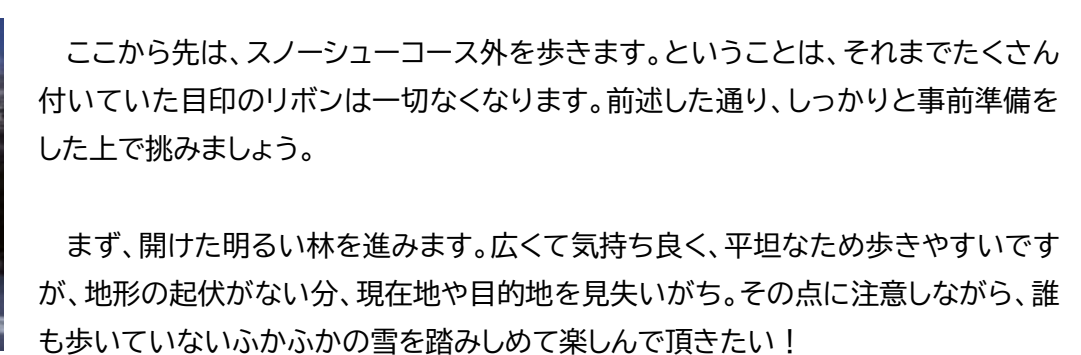
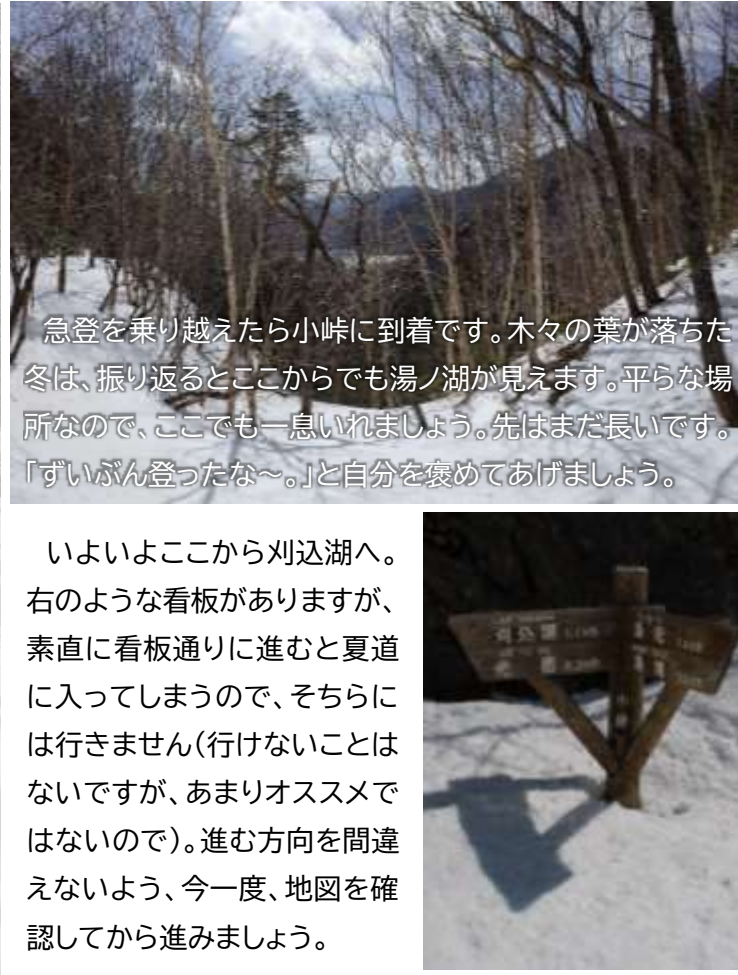
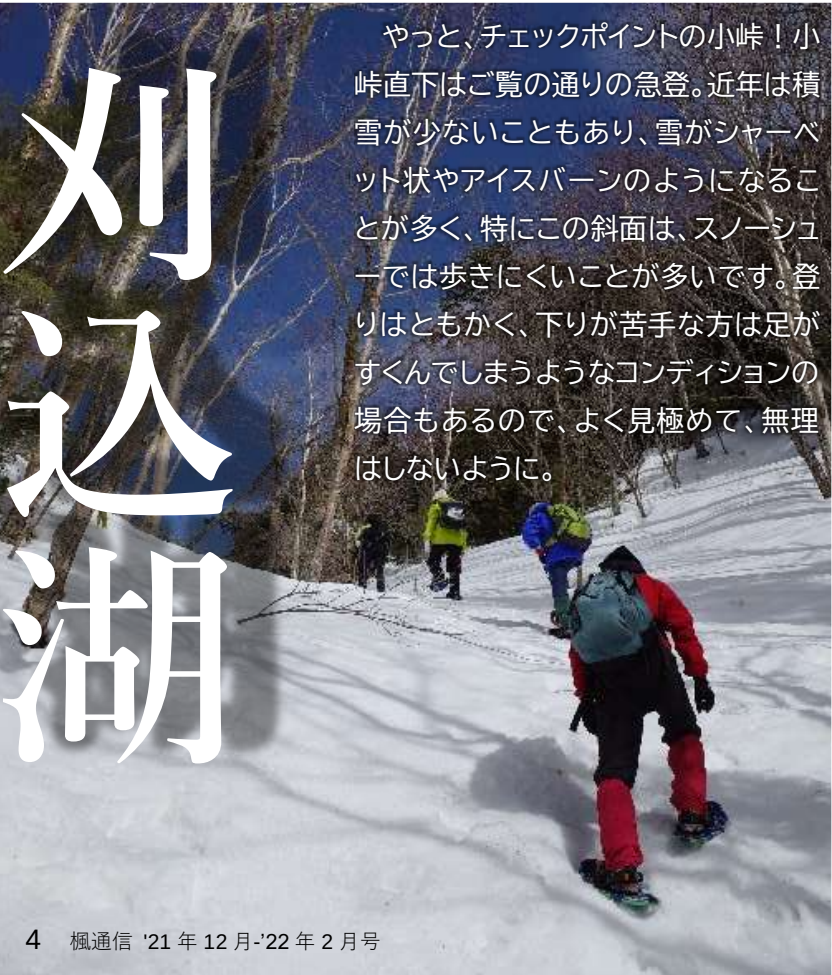
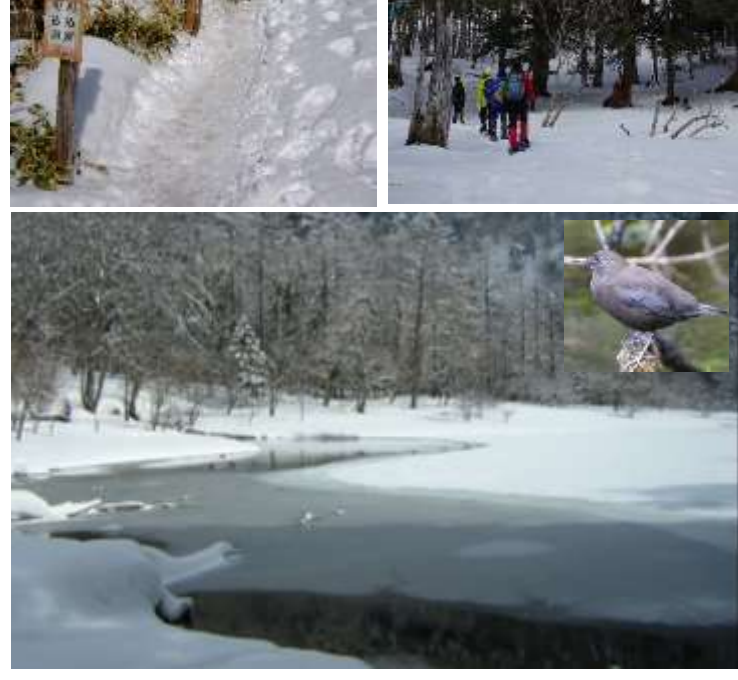
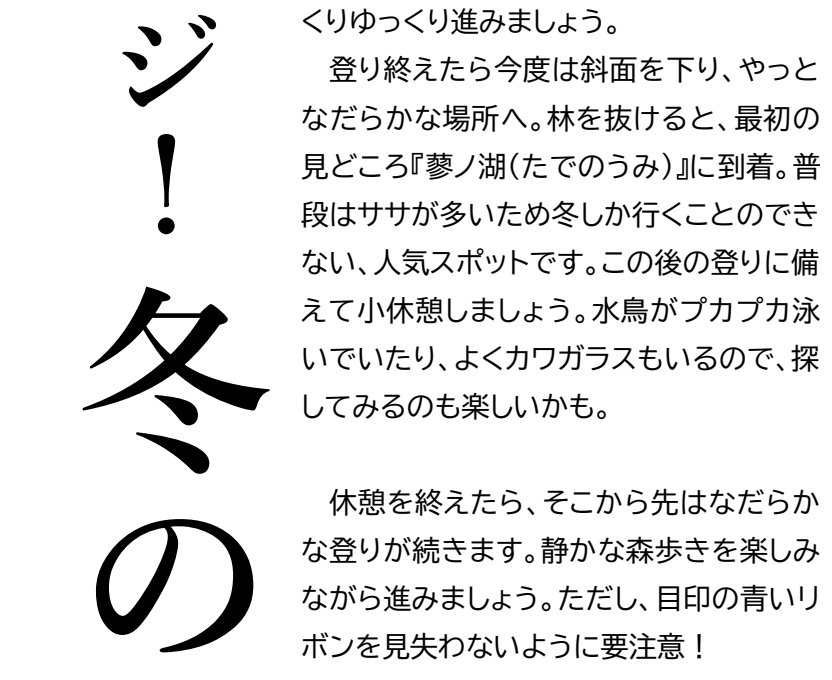
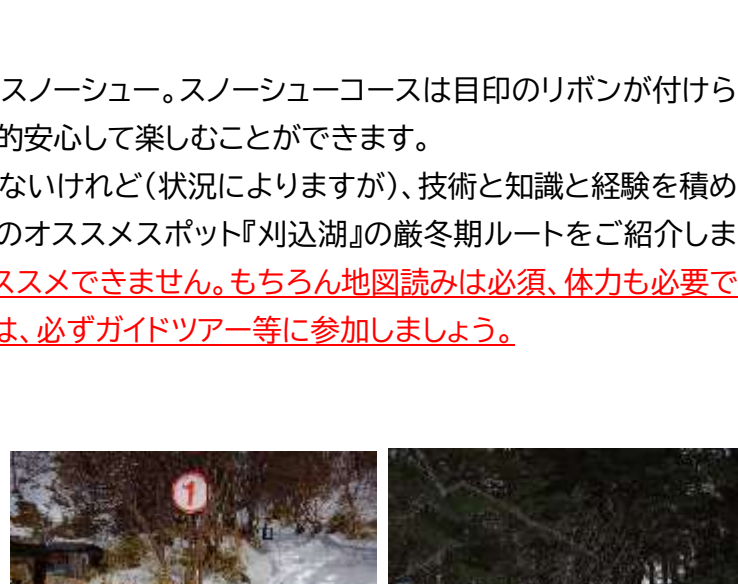
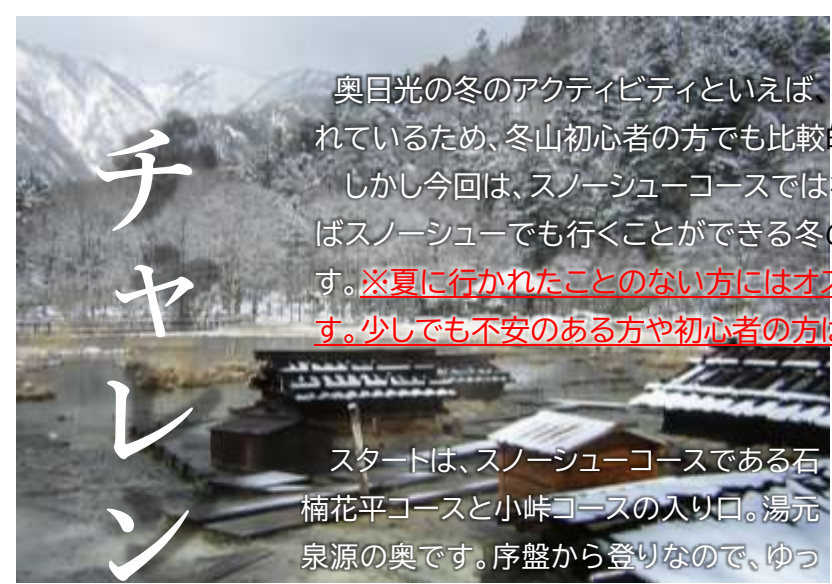
右の写真は私が実際に撮影したものです。人も車も多い日中に、どこからともなく現れ、私のすぐ近くをぐるぐる…。私が食べ物を持つていないと分かったのか、今度は別のお客様のところでぐるぐる…。きっと、自分でエサをとるよりも楽な方法を覚えてしまったのでしょう。

意図的に食べ物を与えなくとも、ゴミを放置すれば結局は同じ

事になってしまいます。自分たちに害がある(添加物など)とは知らない動物たちがそれらを食べ、体に異常が生じたり、本来の狩猟能力が低下し、衰弱して冬を越すことができなくなることもあります。原因は定かではありませんが、実際このキツネも、翌年には姿が見られなくなっていました。

ゴミはどんなに小さなものでも持ち帰り、また、人懐っこい野生動物が現れても、絶対に食べ物を与えないでください。

あくまで私たち人間が、動物たちの居住区にお邪魔させていたでいる、という意識を忘れず、マナーを守って、お互いに良い距離感を保っていききたいですね。



チャレンジ！冬の刈込湖

奥日光の冬のアクティビティといえば、スノーシュー。スノーシューコースは目印のリボンが付けられているため、冬山初心者の方でも比較的安心して楽しむことができます。

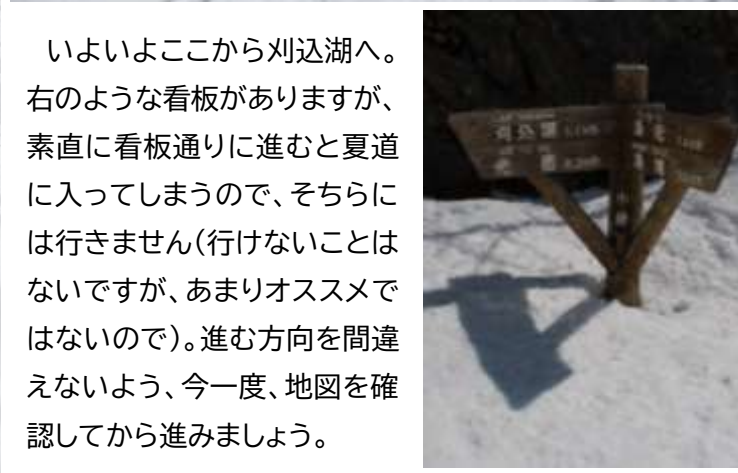
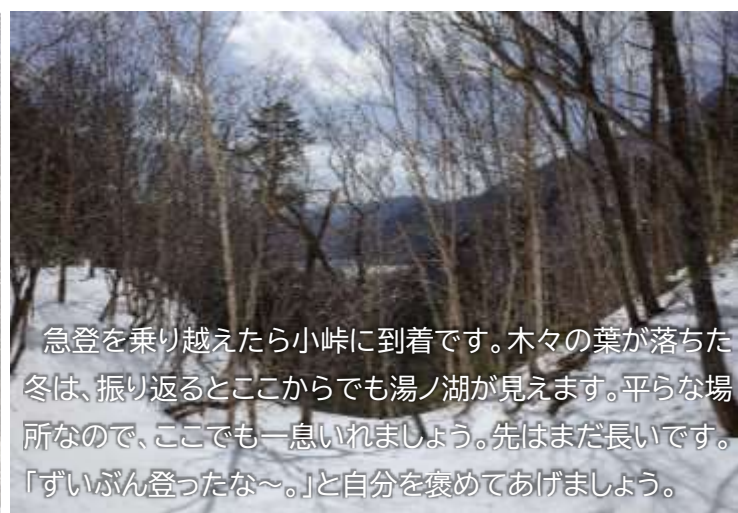
しかし今回は、スノーシューコースではないけれど(状況によりますが)、技術と知識と経験を積み、スノーシューでも行くことができる冬のオススメスポット『刈込湖』の厳冬期ルートをご紹介します。※夏に行かれたことのない方にはオススメできません。もちろん地図読みは必須、体力も必要です。少しでも不安のある方や初心者の方は、必ずガイドツアー等に参加しましょう。

スタートは、スノーシューコースである石楠花平コースと小峠コースの入り口。湯元泉源の奥です。序盤から登りなので、ゆっくりゆっくり進みましょう。

登り終えたら今度は斜面を下り、やっとなだらかな場所へ。林を抜けると、最初の見どころ『蓼ノ湖(たでのうみ)』に到着。普段はササが多いため冬しか行くことのできない、人気スポットです。この後の登りに備えて小休憩しましょう。水鳥がプカプカ泳いでいたり、よくカワガラスもいるので、探してみるのも楽しいかも。

休憩を終えたら、そこから先はなだらかな登りが続きます。静かな森歩きを楽しみながら進みましょう。ただし、目印の青いリボンを見失わないように要注意！

やっと、チェックポイントの小峠！小峠直下はご覧の通りの急登。近年は積雪が少ないこともあり、雪がシャーベット状やアイスバーンのようになることが多く、特にこの斜面は、スノーシューでは歩きにくいことが多いです。登りはともかく、下りが苦手な方は足がすくんでしまうようなコンディションの場合もあるので、よく見極めて、無理はしないように。



ここから先は、スノーシューコース外を歩きます。ということは、それまでたくさん付いていた目印のリボンは一切なくなります。前述した通り、しっかりと事前準備をした上で挑みましょう。

まず、開けた明るい林を進みます。広くて気持ち良く、平坦なため歩きやすいですが、地形の起伏がない分、現在地や目的地を見失いがち。その点に注意しながら、誰も歩いていないふかふかの雪を踏みしめて楽しんで頂きたい！

その後は、岩や起伏のある谷を進みます。踏み抜いたり根っこにスノーシューを引っ掛けたり雪にはまったりと、冬ならではの困難も待ち受けていますので、足元に十分注意して進みましょう。毎年雪まくり(雪崩の子供のようなもの)が多く見られる区間でもあるので、ここは立ち止まらず、ひたすら刈込湖を目指します。

谷を抜けると再度林へ。その林を抜ければついに…！

お疲れさまでした！刈込湖に到着です！暗い林から出てこの景色に迎えられると、疲れなんて吹っ飛びます。真っ白なので分かりにくいですが、平らになっているところが湖面です。おそらく厚い氷が張っていますが、こんなところで湖に落ちたら誰も気づいてくれませんので、絶対にその上を歩いたりしないように。安全なところから景色を楽しんでくださいね。

◀今回のルート。かなりざっくりとした表記&積雪状況によりスノーシューコースもルートが変わるため、あくまで参考程度に。

刈込湖に到着したら、しっかり休憩と昼食をとっておきましょう。帰りは小峠からの急な斜面を下ることになるため、ここでしっかりエネルギーを補給しておかないと体力がもちません。

無事に小峠を乗り越えたら、ほどよい斜面でソリ滑り(ソリがなくても結構滑れます)をしたり、雪に埋もれてみたり、せっくなのでちょっと遊んで帰りましょう。とはいえ、最後まで油断しないように！

冬だ！スノーシューだ！ ビジターセンターのイベント

ゼロから始めるスノーシュー

「スノーシューって何？」という超初心者の方、むしろ大歓迎！

1月15日（土）
9:30-14:30

対象：現地に集合できる**小学生以上**の方
（15歳未満は保護者同伴・20歳未満は親権者の同意必要）
集合場所：日光湯元ビジターセンター



参加費 4,000 円
(スノーシューレンタル代別途必要)

ホンモノの奥日光を体感！奥日光大寒体験

あなたはまだ、本当の奥日光の冬を知らない…。

1月22日（土）
10:00-15:00

対象：現地に集合できる**小学生以上**の方
（15歳未満は保護者同伴・20歳未満は親権者の同意必要）
集合場所：三本松駐車場



参加費 4,000 円
(スノーシューレンタル代別途必要)

1年で最も寒くなる大寒…今年は1月20日だそうですね。というわけで、あえてその時季に、吹きさらしの小田代原へ行き、奥日光のホンモノの冬の寒さを感じようという強気のイベント！真っ白で静かな小田代原で待つ貴婦人に、感動間違いなし！いつも以上に防寒対策をして、いざ！

【ルート】三本松 P⇄小田代原

真っ白な男体山に見守られて…中禅寺湖南岸 2月5日（土） 10:00-15:00

雪で真っ白になった男体山をずっと眺めながら歩くことができる贅沢なコース。高低差の少ない湖岸沿いをのんびり歩いて写真を撮って、コーヒーなんて飲んでしまったらもう…帰りたくな～い！

【ルート】立木観音駐車場⇄中禅寺湖南岸

参加費 4,000 円
(スノーシューレンタル代別途必要)



みつだけ

雪と氷と無音の世界三岳峠をゆく

2月13日（日）
9:00-15:00

昨年度好評だった三岳峠コースの厳冬期版！廃道の三岳林道と、普段誰も歩かないミルクロードの新雪をかき分け、三岳峠を越えて光徳を目指す、冒険感満載のイベントです！

【ルート】日光湯元ビジターセンター→三岳峠→光徳駐車場（現地解散）

参加費 4,000 円
(スノーシューレンタル代別途必要)



超貴重！シカ侵入防止柵沿いを歩く！シカ班体験ツアー

2月20日（土）
9:30-14:00

普段、シカ管理専門員（シカ班）が巡視しているシカ柵沿いを歩き、動物の痕跡を探したり、仕事を体験してみよう！まさにビジターセンターだからできるイベント！過酷なコースではないのでご安心を。

【ルート】三本松駐車場⇄シカ柵ルートの一部
（積雪状況により変更の可能性あり）

参加費 4,000 円
(スノーシューレンタル代別途必要)

対象：現地に集合できる**小学生以上**の方
（15歳未満は保護者同伴・20歳未満は親権者の同意必要）
集合場所：三本松駐車場



お申込み先（自然公園財団日光支部）

MAIL: yumotovc.guide@bes.or.jp
TEL: 0288-62-2461
FAX: 0288-62-2378

お申込みの際、令和元年・2年実施イベントの参加の有無、氏名・年齢、郵便番号・住所・電話及び当日連絡先、交通手段をお知らせください。